



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜地方合同庁舎(仮称) (本庁舎棟)	階数	地上7F
建設地	横浜市中区新港1丁目15番地	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	未定 人
地域区分	6地域	年間使用時間	未定 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、工場、等	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年3月 竣工	評価の実施日	2023年3月6日
敷地面積	14,743 m ²	作成者	梓設計
建築面積	9,522 m ²	確認日	2023年3月6日
延床面積	46,340 m ²	確認者	株式会社 梓設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 4
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 国民共有の財産として親しみやすく便利でかつ安全に利用できる合同庁舎として、様々な環境手法を取り入れた先進的なグリーン庁舎の実現に努めます。		その他 みなとみらい21新港区の地区計画に従い、建物高さを抑えたり、万国橋通りの高さ20mラインの強調など、周辺建物との調和に配慮しています。
Q1 室内環境 業務に柔軟に対応できるフレキシブル性の高い執務空間を確保し、自然採光や共用空間の充実等により、健康的で快適な執務空間の実現に努めます。昼光利用による明るさ制御を行い、消費電力の削減に努めています。	Q2 サービス性能 業務管理ツールとして、「BEMS」を導入し、本システムを中心としたPDCAサイクルによる管理業務と省エネに配慮した監視を行い、良好なサービスの実現に努めます。非常用発電機によるバックアップ、サーバーなどの重要機器に無停電電源装置を設置し、重要な設備の信頼性を確保する計画としております。	Q3 室外環境(敷地内) 横浜市の策定する景観ガイドラインに沿って、地域の賑わいと緑豊かな街並みづくりに配慮した計画とします。
LR1 エネルギー 太陽光発電、雨水利用などの自然エネルギーの有効活用と併せて、Low-Eガラスの採用等による建物熱負荷の低減や、高効率設備機器の採用による省エネルギー化を図ります。	LR2 資源・マテリアル グリーン調達ガイドラインにより、環境負荷の少ない資材やエコマテリアルの採用に努め、副産物・再生資源の活用を積極的に行います。	LR3 敷地外環境 北側道路沿いに面した壁面を後退させるとともに、水際線プロムナードのある南側にデッキを設け、周辺の道路や水際との融合を図り、緑豊かな地域と一体となった施設計画とします。JIS基準に基づく適切な照度レベルを設置し、高効率で漏れ光の少ない照明器具を採用しております。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



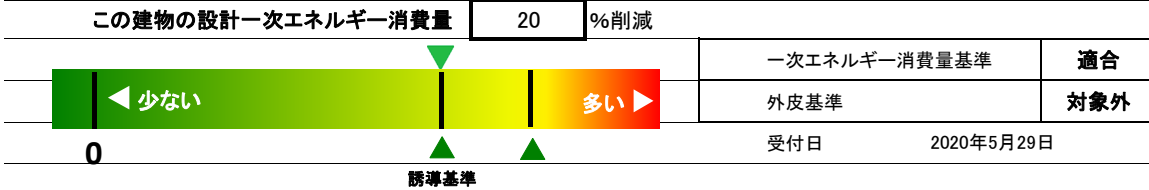
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 **横浜地方合同庁舎(仮称) (本庁舎棟)**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 2**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①BEIの数値による
- ②照明設備に代わり、太陽光を利用した自然採光システムを採用している

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【快適・働きやすさ】 3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑩ブラインドに庇を組み合わせて昼光制御、執務室内は全般照明にて照度750Lx以上を確保
- ⑪換気量は一人当たり30CMH以上導入、給排気口の設置位置はそれぞれ最低6m以上の離隔を確保、施設内禁煙としている

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

- ⑫バリアフリー法の円滑化誘導基準を満たしている、外周にメンテナンスバルコニーを設置、天井点検口は600角
- ⑬フレキシビリティに配慮し、間仕切りはすべて乾式工法を採用。ユーザーとのヒアリングを踏まえた平面計画。

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

- ⑭1階に十分なオープンスペースを確保するとともに積極的に敷地内緑化を行っている。2階の屋上にも植栽を設け、立体的な緑景観を創出。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防災】 4**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑮基礎免震構造として計画(建築基準法に定められた50%増の耐震性を有している。)
- ⑯劣化対策等級2相当
- ⑰熱源設備の多熱源化および重要諸室は個別熱源でバックアップを計画、給水設備は受水槽の設置および排水設備は緊急排水槽を計画
- ⑰受変電設備の幹線二重化、光ケーブル・メタルケーブル等の通信線路の多様化

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 4**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

- ⑱耐潮性の強い樹種を選定するとともに、当街区において生育実績のある樹種を選定し、維持管理性に配慮
- ⑲当該区の景観ガイドラインに準拠するとともに、高さを低く抑え、近隣建物と色彩を揃えることで街区全体としての調和を図る
- ⑳隣接する赤レンガ倉庫に倣った低層部のレンガタイルとしている
- ⑳水際線プロムナードに面した豊かな景観を生かし、施設南北を通り抜け可能なエントランスホールを設置

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
太陽光利用	雨水等利用設備
エネルギーマネジメントシステム導入	
BEMS	



CASBEE横浜2017年版v.1.7
横浜地方合同庁舎(仮称) (本庁舎棟)

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-			3.6
Q1 室内環境					0.39		-			3.1
1 音環境				3.4	0.15	-	-			3.4
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-			-
1		開口部遮音性能		5.0	0.60	-	-			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-			-
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-			-
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-			2.4
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-			-
1		室温		快適・働きやすさ	3.0	0.38	-	-		-
2		外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	3.0	0.25	-	-	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	-
3		ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	3.0	0.37	-	-	⑨温熱環境	-
2.2 湿度制御				快適・働きやすさ	3.0	0.20	-	-	⑨温熱環境	-
2.3 空調方式				快適・働きやすさ	1.0	0.30	-	-	⑨温熱環境	-
3 光・視環境				3.9	0.25	-	-			3.9
3.1 昼光利用				3.0	0.31	-	-			-
1		昼光率		快適・働きやすさ	3.0	0.59	-	-	⑩光環境	-
2		方位別開口		快適・働きやすさ	-	-	-	-	⑩光環境	-
3		昼光利用設備		快適・働きやすさ	3.0	0.41	-	-	⑩光環境	-
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-			-
1		昼光制御		快適・働きやすさ	4.0	1.00	-	-	⑩光環境	-
3.3 照度				快適・働きやすさ	4.0	0.15	-	-	⑩光環境	-
3.4 照明制御				快適・働きやすさ	5.0	0.25	-	-	⑩光環境	-
4 空気環境				3.4	0.25	-	-			3.4
4.1 発生源対策				3.0	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質		快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-	⑪空気環境	-
4.2 換気				3.6	0.30	-	-			-
1		換気量		快適・働きやすさ	4.0	0.34	-	-	⑪空気環境	-
2		自然換気性能		快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-	⑪空気環境	-
3		取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	4.0	0.34	-	-	⑪空気環境	-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			-
1		CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-	⑪空気環境	-
2		喫煙の制御		快適・働きやすさ	5.0	0.50	-	-	⑪空気環境	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.7
1 機能性				3.5	0.40	-	-			3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性		快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-	⑫機能性	-
2		高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-	⑫機能性	-
3		バリアフリー計画		快適・働きやすさ	4.0	0.34	-	-	⑫機能性	-
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観		快適・働きやすさ	3.0	0.34	-	-	⑫機能性	-
2		リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-	⑫機能性	-
3		内装計画		快適・働きやすさ	4.0	0.34	-	-	⑫機能性	-
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-	⑫機能性	-
2		維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	5.0	0.50	-	-	⑫機能性	-
2 耐用性・信頼性				4.2	0.30	-	-			4.2
2.1 耐震・免震				5.0	0.50	-	-			-
1		耐震性		防災	5.0	0.80	-	-	⑬耐震・免震	-
2		免震・制振性能		防災	5.0	0.20	-	-	⑬耐震・免震	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数		防災	4.0	0.20	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	3.0	0.20	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	3.0	0.10	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	3.0	0.10	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	3.0	0.20	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
6		主要設備機器の更新必要間隔		防災	3.0	0.20	-	-	⑭部品・部材の耐用年数向上	-
2.4 信頼性				4.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備		防災	5.0	0.20	-	-	⑰信頼性	-
2		給排水・衛生設備		防災	5.0	0.20	-	-	⑰信頼性	-
3		電気設備		防災	5.0	0.20	-	-	⑰信頼性	-
4		機械・配管支持方法		防災	1.0	0.20	-	-	⑰信頼性	-
5		通信・情報設備		防災	4.0	0.20	-	-	⑰信頼性	-
3 対応性・更新性				3.4	0.30	-	-			3.4
3.1 空間のゆとり				4.2	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		5.0	0.60	-	-			-
2		空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				3.2	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		4.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.7
横浜地方合同庁舎(仮称) (本庁舎棟)

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.7

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31	-	-			4.1
1		生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-			3.0
2		まちなみ・景観への配慮		5.0	0.40	-	-			5.0
3		地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-			4.0
3.1		地域性への配慮、快適性の向上		5.0	0.50	-	-			-
3.2		敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-			-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-			3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-			3.3
1		建物外皮の熱負荷抑制		4.3	0.20	-	-			4.3
2		自然エネルギー利用		3.9	0.10	-	-			3.9
3		設備システムの高効率化		3.0	0.50	-	-			3.0
4		効率的運用		3.0	0.20	-	-			3.0
		集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-			-
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			-
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			-
		集合住宅の評価		-	-	-	-			-
	4.1	モニタリング		-	-	-	-			-
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-			-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-			3.7
1		水資源保護		3.8	0.20	-	-			3.8
1.1		節水		4.0	0.40	-	-			-
1.2		雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-			-
	1	雨水利用システム導入の有無		4.0	0.70	-	-			-
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-			-
2		非再生性資源の使用量削減		3.9	0.60	-	-			3.9
2.1		材料使用量の削減		4.0	0.10	-	-			-
2.2		既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-			-
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-			-
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		5.0	0.20	-	-			-
2.5		持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-			-
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.20	-	-			-
3		汚染物質含有材料の使用回避		3.2	0.20	-	-			3.2
3.1		有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-			-
3.2		フロン・ハロンの回避		3.3	0.70	-	-			-
	1	消火剤		4.0	0.33	-	-			-
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-			-
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-			-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-			3.0
1		地球温暖化への配慮		3.5	0.33	-	-			3.5
2		地域環境への配慮		2.6	0.33	-	-			2.6
2.1		大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			-
2.2		温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-			-
2.3		地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-			-
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			-
	2	污水处理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
	3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-			-
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			-
3		周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-			3.0
3.1		騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-			-
	1	騒音		3.0	0.33	-	-			-
	2	振動		3.0	0.33	-	-			-
	3	悪臭		3.0	0.33	-	-			-
3.2		風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-			-
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			-
	2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-			-
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-			-
3.3		光害の抑制		3.0	0.20	-	-			-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-			-
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			-
上記以外の重点項目										
<事務用途>										
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	4.0	-	-	-			-
<住宅用途>										
健康と安心										
1		化学汚染物質の対策		-	-	-	-			-
2		適切な換気計画		-	-	-	-			-
3		結露・カビ対策		-	-	-	-			-
4		犯罪に備える(共用部の防犯対策)		-	-	-	-			-